

学校経営の重点

- (ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。
- (イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。
- (ウ) 愛情に満ちた親子関係の中で望ましい育児が行えるよう、保護者の支援を行う。
- (エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促すとともに、視覚情報を効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、基礎的な言語の獲得を進める。
- (オ) 豊かな生活体験を通して基本的な生活習慣の確立をはかり、障害に基づく困難の改善と克服および自立を目指す人間性の素地を培う。
- (カ) 地域におけるセンター的機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。

自己評価基準 A 達成している ■ B おおむね達成している ■ C あまり達成していない ■ D 達成していない ■

学部・分掌	(学校経営の重点) 各部の今年度重点目標と結果・課題				
	具体的取り組み	結果と課題	各部評価	校内評価(18)	学校関係者評価
保育相談部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。				
	幼児の聴力や生活の中での音反応を把握し、さまざまな音素材をつかった音あそびの中で聴覚活用を促す指導に取り組む。	日常生活での音反応を観察したり、聴力測定を行ったりして、幼児の聴力を把握した。音遊びは、「音の合図で動く」遊びや楽器を使った遊びにくり返し取り組んだ。子どもたちが興味をもち、鳴らして楽しめる楽器を増やしていきたい。	B		・昨今はインターネットに頼りすぎ、誤った情報でも知らない事なので信じ込んでしまうところがある。保護者の方には、情報を上手に使うって提供することが大切。孤立しがちになることもあるので、配慮していく必要もある。 ・「良い子を育てるといい親だ」と子育てが親の評価につながってしまっているところがある。通常にありがちなことで、親がありのままの我が子を素直に受け入れられないことも多いと言われている。乳児の育児は大変デリケートな問題、先輩の保護者とふれあうことはとても良いことだと思うので続けてほしい。 ・「大丈夫」「一緒に〇〇しよう～」などと、丁寧に言葉がけをしてほしい。
	(ウ) 愛情に満ちた親子関係の中で望ましい育児が行えるよう、保護者の支援を行う。				
幼稚園部	母子あそびや絵本の読みきかせをしている様子をビデオに撮り、ビデオをもとに親子のかわり方や伝え方について、母親に助言する。	各クラスでビデオ撮りし、保育相談部教員でアドバイスの内容を検討して母親に伝えた。母親が自分の関わりを客観的に見て、改善点に気づくようになったが、改善点に気づいてもすぐに実践できるわけではなく、それぞれの母子にあわせて、繰り返し話し合いを積み重ねていく必要がある。	A		・母と子の対応について心配する家族が増えました。保育内容を伝えて、安心して過ごせるようにしてほしい。保護者に対してのケアが必要である。
	母親同士が子育てについて悩みを共有し、話し合う場として、「夏祭り」などの行事やおべんどう交流を設定する。	「夏祭り」や校外学習などの保育相談部行事は親子で楽しむ様子が見られた。おべんどう交流は1学期に1回設定したところ、母親同士で悩んでいることを話したり、先輩の母親に経験をきいたりしていた。来年度は回数を増やしたい。	B		
	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。				
相談センター部	・教室やベランダにおける小動物や植物及びおもちゃ等の保育環境を整備し、自由遊びの時間を確保することで、子どもたちが自分から積極的に遊ぶ姿勢を育てる。	身近な小動物や植物などに触れられるような環境づくりは心がけることができた。給食に時間をかかると昼休みのあそびの時間が少なかった。自由に制作ができるように廃材を集めたが、保育の時間に取り込む事ができなかった。	B		・なかよし遊びなどは、上の学年の子の様子をみるので自分の目標ができる。先生たちはいるんなら評価を受けながら改善していきたい。いろいろな手段でアプローチの仕方を身につけてほしい。
	・曜日を変更して、月2〜3回なかよし遊びの時間を確保し、異年齢教育の充実を図る。	なかよし遊びの時間を水曜日から火曜日に変更することで昨年度に比べて、時間の確保が可能になった。お店やさんごっこや運動遊び、グループでのお楽しみ会など、計画的に実施することができた。	A		・自由に遊ぶこととことばを入れていくことの両立は難しい。子ども主体の保育をする。保育の意図をどれだけ理解してもらうかが大切。
	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。				
教務部	・発達課題別グループ保育の時間を通して、自ら発信できる力、他者からの発信を受け止める力の向上を図る。また、保護者へ保育の意図や子どもの課題を伝える時間を確保する。	学部としての研究テーマでも取り上げており、発達課題別グループの保育の時間を確保するとともに、保育の内容について教師間で検討する機会も多く持つことができた。保護者へ保育の意図や課題を伝える時間は不足していた。	B		・先生の努力を感じる。感謝してる。
	(カ) 地域におけるセンター的機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。				
教務部	保護者と連携の上、教育相談利用児の在籍する学校園等を訪問し、参観や事例検討、研修を通して、難聴児の理解と支援を図る。	学校園からの要請を受け、卒業生を含む教育相談利用児が在籍する学校園を訪問し支援を行った。授業場面等を参観することで、個に応じた具体的な支援方法について助言することができた。また開こえ等の研修会を実施し、学校園全体の難聴児に対する理解啓発にも繋がった。次年度も保護者と連携し、継続して実施していく。	A		・地域の小学校など教員に理解してもらうのはいいことです。教員が変わると学校が変わり教育現場が楽しくなり、子ども達が生き生きとくる。 ・コーディネーターの視察で現場をみるということは、現場の人にとっても良いこと。 ・特別支援教育では発達障害が先行しており、聴覚障害は後回しになっているのではないかと。難聴学級の先生も何かしてあげたいが、何をしたいのかわからないというのが現状だと思う。 ・難聴児が見えにくくなっているのが現状。早くに聴覚障害が分かるとういので、どんどん地域に出て行って欲しい。 ・外部への支援は有難い。
	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。				
教務部	子どもの発達を理解し個別の指導に活かすために、研究部と協力し発達検査等の校内研修を行う。	近隣の特別支援学校から検査道具を借用し、休業中の時間を利用して新版K式発達検査の実施方法についての校内研修会を実施した。今後は、検査結果に基づいた解釈についての理解を深め、個別の指導計画の作成や個別の指導内容に活用できるようにしていくことが課題である。	B		・発達検査の校内研修をしているが、検査が大事なのではなく、どのように指導したらいいのかを研修してほしい。

研究部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。				<ul style="list-style-type: none"> 研究や研修をしっかりとされていてすばらしい。 卒業生(成人)の話をきけて良かった。成長を不安に思うので、もっと聞きたい。 保護者研修もよくやっていると思う。
	10月の全日本聾教育研究大会兵庫大会で、保育を公開すると共に、幼稚園・保育相談部の実践・研究を発表する。研究会で受けた助言を元に、本校の教育の改善につなげる。	本年度の全日本聾教育研究大会兵庫大会に向け、平成24年度から三年間、保育相談部は信州大学の庄司和史先生、幼稚園部は筑波大学の松本末男先生にご指導いただいた。研究大会では3年間研究と実践を重ねてきた内容を報告することができた。新たな課題も見えてきたので、今後も教員全員で研究を重ね、子どもの実態に応じた教育を検討していきたい。	B		
	全教員が研究授業を行い、指導力を更に向上させる。子どもの表出を適切に捉えているか、個々の子どもの発達に合った教師の働きかけであるか、検討を重ねる。	今年度も予定していた研究授業をすべて行うことができた。全日聾の助言者の先生に、授業研究会に参加してもらい的確な指導を受けたことが、教員の指導力の向上につながったと考える。今後も、細やかな視点でお互いの指導を検討し合える授業研究会を続けていきたい。	B		
	(ウ) 愛情に満ちた親子関係の中で望ましい保育が行えるよう、保護者の支援を行う。				
	保護者が愛情を持ってわが子に向き合い、子どもの発達や特性に応じた関わりができるよう、保護者研修を実施する。成人聴覚障害者の話を聞く機会を持ち、子どもの障害を受け止める素地を養う。	今年度、予定していた研修会をすべて行うことができた。保護者のニーズや今日的な課題に合わせ、毎年内容を検討し少しずつ変えている。保護者が子どもの発達や特性に応じた関わりができるよう、今後も研修会を企画し支援していきたい。	B		
生活部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。				<ul style="list-style-type: none"> 食育は大変よくできている。生活の基本はとても大事である。「あたりまえ」が当たり前に育っていない子が多い。「睡眠」「食べる」「歯磨き」生活を刻めることが大切であるので、家庭にもアピールしてほしい。 防災をされているが、「怖い」ということを知らせた方がいい。研修のあり方で、防災センターみたいなのところを利用していいのではないかと。(地震の体験等)
	季節感が感じられ、子どもたちが主体的に関われるように、玄関や廊下の環境構成を整える。	玄関のホワイトボードや長椅子、階段の壁に季節を感じられる物を飾り、環境を整えた。また、玄関壁面を毎月変えて月が変わった事を知らせた。各教室では、子ども達が遊んだり、制作を行ったり主体的に活動できるように、子ども達の実態に合わせて工夫した空間を作った。次年度もより子ども達が環境に関われる環境を整えていきたい。	B		
	各クラスに花壇と畑を割り当て、季節に合わせた野菜や花を育てる。年間を通じて栽培計画を立て、子どもたちがお話をしたり、収穫体験をする。	今年度は野菜がよく育つように畑にマルチを張った。また、果物にもネットを張る等、工夫を凝らした。収穫が増えた。花壇でも各学年が花を育て、保育の充実につながった。	B		
	舞子高校との交流教育(地震と津波のお話)を通して、地震と津波の怖さを知り、高い建物に逃げるということを知る。また、津波発生時の避難訓練を通して災害発生時に、落ち着いて行動ができるようにする。	幼児の実態に合わせた防災授業を行うことで、災害(地震や津波)の簡単な仕組みを知り、災害の怖さや正しい逃げ方を丁寧に知らせることができた。地震、津波発生時の避難訓練では、近隣の4階建ての建物を利用することで、高い所へ避難することを意識させることができた。次年度も様々な活動場面で地震発生、津波警報発令等を想定した訓練を行ってきたい。	B		
	(オ) 豊かな生活体験を通して基本的な生活習慣の確立をはかり、障害に基づく困難の改善と克服および自立を目指す人間性の素地を培う。				
	給食を通して食に関する知識を高め、食べる楽しさを体験できるように、季節や栄養バランス、子どもたちの嗜好に配慮した献立を充実させ、なかよし給食やリクエスト給食なども実施する。	季節や行事に関連した献立を計画的に取り入れることができたので、子どもたちの給食時間中の話題が多くなり、食への興味・関心につながった。なかよし給食、リクエスト給食も計画通り実施することができた。	B		
	子どもたちの食への関心を高めるため、クッキングや給食の時間を利用した食体験活動を保育の一環として取り入れる。	季節に合った活動を一部取り入れることができたが、年間を通じて実施することができなかった。次年度は、栽培活動や保育と関連した活動ができるように、計画的に進めていきたい。	B		
	保護者からの食物アレルギーやその他健康に関する相談を受け、幼児が学校生活を健やかに過ごせるようきめ細やかな配慮をする。	今年度、本校の食物アレルギー対応マニュアルを作成し、これに沿った対応をスタートすることができた。数件ではあるが、個人的な問題についても保護者と相談する時間を持つことができた。次年度も食物アレルギーやその他の健康相談について、細やかな対応をしていきたい。	A		
情報部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。				<ul style="list-style-type: none"> FM補聴器は音も綺麗であり、聴覚活用にはつながる。小学校に上がる前に訓練のために使用させるのを要める。
	電子掲示板を活用して絵本の読みかせ会への期待を高め、積極的に参加できるように働きかける。	毎月2回程度実施できたが、保育時間がずれ込むこと等により定刻通り開始できないことが多かった。開始時間を周知し厳守することが課題である。	B		
	新刊図書の本紙カバーを図書室前に掲示したり、絵本ラックに季節の絵本を選んで置いたりして、子どもたちが絵本に親しめる環境を整える。	毎日絵本ラックや返却絵本を整理し、図書室を利用しやすい環境を整えた。また、新刊図書の本紙カバーの掲示に加え、読みかせの時に絵本の紹介を行い、子どもたちが絵本に興味をもてるようにした。次年度も継続して取り組み、図書室の利用に繋げていきたい。	A		
	(カ) 地域におけるセンター的機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。				
	本校の特色ある教育活動や幼児の様子をより理解してもらうために、ホームページに動画のコーナーをつくり、随時情報を発信していく。	写真等の記事は予定通り更新することができたが、動画については個人情報扱いが難しく、撮影・編集方法等の検討を行っている段階である。動画になると個人が特定できる場面がかなり多くなるので、今後どうしていくか引き続き協議していく必要がある。	C		